

高教組通信 No.2

2008年6月27日
兵庫県高等学校教職員組合
http://www.hyogo-kokyoso.com
hobu@hyogo-kokyoso.com

淡路の2つの分校を守れ！ 県教委の募集停止方針に地域が立ち上がる！

突然の分校廃止方針

神戸新聞は6月14日、「淡路の県立高・2分校募集停止へ」という記事を掲載しました。

記事によると、県教委は6月10日、島内の教育関係者を集め説明会を開催。高校教育課は島内の公立中学校長や市教委職員らに、「両分校の募集停止の方針を固めつつある」と発言。中学校側からは、「既に進路指導は始まっており、3年生にどう説明すればいいのか」と戸惑う声が出たということです。

急速に広がった反対運動 全市会議員が請願の紹介議員に！

地域では、淡路高校一宮分校、洲本実業東浦分校のPTAや同窓会などを中心に急速に「分校を守れ」の動きが広がりました。

淡路市議会に対しては、それぞれの分校関係者が中心になって請願書を提出しました。一宮高校の請願書の提出者は、一宮校PTA会長、同窓会会長、旧一宮町連合町内会長、淡路市商工会会長、淡路地区PTA協議会長兼兵庫県PTA協議会副会長、国際ソロプチミスト淡路会長の6人。紹介議員には、なんと、全市会議員が名を連ねました！前代未聞ということです。分校存続の願いが地域の総意であることを象徴しています。

23日、淡路市議会が全会一致で分校存続の請願を採択！

23日、両分校の関係者を中心に30人の傍聴者が見守る中、2つの請願が全会一致で採択されました。

請願採択を受けて作成された市議会の意見書は、次のように述べています。

淡路市議会意見書より（抜粋）

地元の子どもたちが安心して地域の高校に通えることが必要である。すなわち、地域における高等学校は地域住民の財産であり、地域の子どもたちの教育を保障する場である。

財政の厳しい現状は理解できるところであるが、教育に関しては経済性や合理性だけの理由で判断すべきものではないと考える。

少子高齢化が進む中であって、両校の存在・存続は新しい地域づくりになくしてはならないものである。

よって、県立淡路高等学校一宮校及び県立洲本実業高等学校東浦校の募集を停止することなく、存続が図られるよう強く要望する。

20日の教育委員会議では強行できず

県教委は、6月20日の教育委員会議で、特色選抜校の発表や学科・コースの募集停止など、一連の「高校教育改革」の施策を決定し、発表する予定であったようです。多くの学校で、20日の決定を前提に、説明会等の予定が組まれていました。当然、その中には、淡路2分校の募集停止方針も含まれていたと思われます。

しかし、淡路の2分校募集停止に対する急速な反対運動の広がりの中で、県教委は「高校教育改革」関係の全ての事案の決定を見送りました。

淡路の分校問題は、予断を許さない情勢です。次回の定例教育委員会議は7月4日（金）です。

そもそも道理のない分校廃止方針

なぜ分校募集停止？

2分校は、地域に支えられ、定員一杯の入学者を迎えています。それを募集停止にする理由として、県教委は、来年度の淡路島内の公立中学校卒業者が今年に比べて200人減る見込みを示し、「学区内の県立高校で少なくとも4学級減を検討する」必要があるからとしています。

しかし、2分校のある淡路市の来年度の卒業者減は51人のみ。しかも再来年度は25人増加します。1年限りの1クラス分の生徒減で、なぜ2分校の募集停止なのか？ そもそも道理がありません。

第2次実施計画では、分校の募集停止は「検討課題」

今年2月に決定された「兵庫県高校教育改革第2次実施計画」では、小規模校・分校については、右上のコラムの方針が出されています。

分校・小規模校に関しては、基本は、「地域の教育力を活用した特色ある教育活動の展開」「地域に支えられた魅力ある学校づくり」「地域の支

高校教育改革第2次実施計画より

- ① すべての学年が1学級の小規模校において、地域の教育力を活用した特色ある教育活動を展開すると共に、地域に支えられた魅力ある学校づくりを推進するため、地域の支援組織を設置し、本校として存続するための具体的な方策や地域からの支援策などについて検討する。
- ② 丹有学区及び淡路学区における4分校については、地域の実情を踏まえた上で本校や近隣校との学級数のバランスを考慮し、小規模校として存続するか本校へ統合するか、そのあり方を検討する。

援組織を設置」であり、分校についても、「そのあり方を検討する」というのが県教委の方針です。

6月10日に地域に募集停止方針を説明し、すぐにその方針を教育委員会議で決定しようという乱暴なやり方は、県教委自身の方針にも反するのではないのでしょうか。

県教委は「地域の声を尊重する」という言明を守り 淡路2分校募集停止方針を撤回せよ！

「地域の声を尊重」は県教委の基本方針

県教委は、高教組や市民団体との交渉の場で繰り返し「地域の声を尊重する」、「分校や小規模校も、地域の支援があれば存続させる」と回答してきました。

今まで、選抜制度の改変なども、形の上では、市教委や市議会などの「要請」を受けて実施してきました。

地域の総意を受けて採択された議会の意見書は、紛れもない公式の「地域の声」です。

淡路市議会が2分校存続の請願を全会一致で採択した以上、県教委は、募集停止を強行することはできません。

地域に愛され・支えられている淡路の分校は兵庫の宝

募集停止方針の報を受けて、地域では短期間に「分校を守れ」の声が広がり、大きな運動になっています。これは、2分校が地域に根ざした教育を行い、地域に支えられ、愛されている証拠です。「地域に開かれた学校づくりを目的とした事業の充実を図り、地域と連携した教育活動をさらに推進する」（第2次実施計画）という方針の県教委としては、むしろ大切に育てるべきでしょう。

こんな兵庫の宝を募集停止にすれば、県教委の道義的権威は地に落ちることになるでしょう。募集停止方針はきっぱりと撤回すべきです。